

2016年12月4日 待降節第2主日

マタイ 3:1-12 イザヤ 11:1-10 ローマ 15:4-13

★今週の聖句

その方は、聖霊と火であなたがたに洗礼をお授けになる。

マタイ 3:11

★ねらい

・主の到来を迎えるということは、神の言葉と真剣に向かい合う、ということでもある。アドベントは、神の前の自分の姿を見つめなおすときなのである。

★説教作成のヒント

・キリストを私たちの中に迎えるということは、神様からの「立ち帰れ！」というメッセージを受け入れることである。神に立ち帰ろうとするとき、わたしたちは神の裁きの前に、取り繕わない自分の姿をさらけ出すことになる。しかしそこで、わたしたちは罪人を憐れみ、救い出してくださるためにこの世へとやってこられた神の恵みと出会うのである。

★豆知識

・「荒れ野」は旧約聖書の時代から、神と出会う場所だとされてきた。荒れ野は旧約聖書の古代イスラエルの民が、モーセによるエジプト脱出の際に40年間さまよった場所でもある。その間、イスラエルは神に何度も反抗し、罰を与えられることもあったが、神はイスラエルが約束の土地に入るまで、離れることなく導き続けた。

★説教

先週から、「待降節」という季節を迎えています。クリスマスを迎える準備をするときですね。もちろん、楽しい準備もたくさんあります。プレゼントを、みんなはもらうことの方が多いかもしれませんが、お友達やおうちの方に、何をあげたら喜ばれるかなあ、というのも考えてみたらどうでしょう。考えている時間もきっと楽しいはずです。クリスマスの準備は、楽しいことがいっぱいです。

楽しい準備のほかにも、大切な準備があります。それは、イエス様に来ていただく前に、私たちの心の大掃除をすることです。クリスマスが終わったら、大掃除もありますね。お掃除は好きですか？きれいになるのは嬉しいですけど、少しめんどろだったりすることもありますね。今日の聖書の言葉は、ヨハネさんという人が、イエス様が来る前に「あなたたちは神様に心のお掃除をしてもらわないといけないよ！」と教えてくれているところです。

「火」ということばが出てきましたね。「火」は好きですか？暖かくて嬉しいと思う時もあるかもしれませんが、でも、火はときどき怖いですね。「火」というのは物を燃やしてしまうので、悪いものを滅ぼしたり、よくないものをきよめたりする働きがあるとも言われていました。ヨハネさんはそうやって、イエス様をお迎えする前に、心の中を火で燃やしてお掃除なさい、と言ったのです。

わたしたちの心は、いつも良い状態ではありません。誰かに意地悪をしてしまったり、だれかを悲しませてしまったり…心のお掃除をしようとするとき、わたしたちは自分の心の中に、冷たかったり、ときどき意地悪だったり、あんまり知りたくない自分の気持ちを見つけてしまいます。

でも、その心にわたしたちはイエス様をお迎えします。ヨハネさんやイエス様の言葉が、わたしたちの心をちくちく刺すときがあるかもしれませんが、でも、わたしたちの心がいたいということは、それは私たちの心に、イエス様が入ってきてくださっているというしるしでもあるのです。「さあ、いっしょにお掃除しようか。私がやってきたから、もう大丈夫だよ」わたしたちは、クリスマス、ただイエス様をお迎えするのではなくて、わたしの心の中にイエス様に新しく生まれていただくのです。

私たちの心は、冷たかったり、きれいではなかったりして、イエス様をお迎えするのにふさわしいところではありません。しかし、そんなわたしたちと一緒に生きるために、イエス様はわたしたちのところに生まれてきてくださったのです。そのイエス様を喜んでお迎えするわたしたちでありたいですね。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

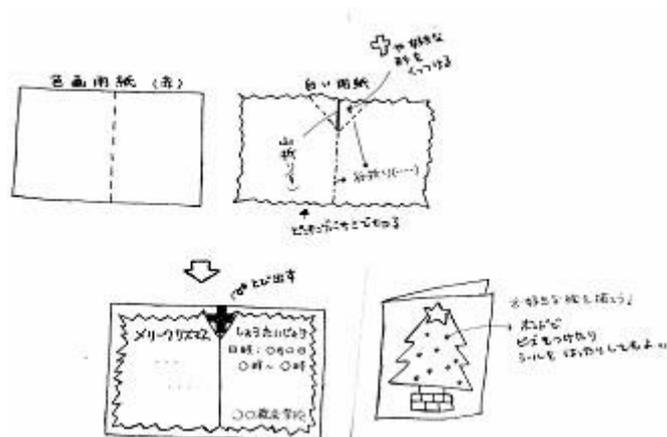
□57番 「しゅよわたしをあわれみ」

□改訂65番 「主を待ち望むアヴェント」

やってみよう

☆CS クリスマス会の招待状を作って、お友達にプレゼントしよう。

(例)



話してみよう

- ・「悔い改める」とは、どういうことでしょうか。
- ・「悔い改め」はルーテル教会の礼拝の中では、毎週、罪の告白「神さまごめんなさい」と言いますね。「悔い改め」は、私たちにとってなぜ大切なのでしょうか。
- ・神さまと私たちをつなぐ道をまっすぐに整えて、イエス様のお生まれを待つには、どうしたらよいでしょうか。

2016年12月11日 待降節第3主日

マタイ 1:18-23 イザヤ 7:10-14 ローマ 1:1-7

★今週の聖句

マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。

マタイ 1:21

★ ねらい

・ヨセフがマリアを受け入れるには葛藤があった。その葛藤の中で、神さまがヨセフとマリアに道を開いてくださったこと、そこから救いの歴史を作ろうとしてくださったことを知る。

★説教作成のヒント

- ・ヨセフは最初、マリアとの縁を切ろうとしたが、それはヨセフにとって、マリアを石打の刑にさせないための苦肉の策であった。人の目から見れば、マリアの妊娠はヨセフに対する裏切りである。
- ・神のお告げによって、ヨセフはマリアを受け入れることを決意する。マリアを受け入れることはヨセフにとってもマリアにとっても、茨の道を歩むことだったはずである。しかし、ヨセフが、愛と、人知を超えて働いてくださる神への信頼をもってマリアと子を受け入れることを決意したとき、その現実の中で神の救いの計画が実現していく。
- ・神の民イスラエルは、神に対する背きの罪によって国を失い、長い間他国の支配下に置かれていた。自分たちを罪から解放し、神との関係を回復してくれる救い主の登場は、ユダヤの人々の長年の悲願であった。ヨセフも救い主の登場を強く待ち望んでいただろうが、まさか自分がその誕生に関わるなどとは、思ってもいなかったに違いない。神は、不安や恐れ、戸惑いを抱えた小さなカップルを、ご自分の大きな恵みを全世界に示すための、救いの計画のために用いられた。

★ 豆知識

- ・当時、婚約・結婚をしていながら他の男性と関係を持った女性は、人々の間に引き出され、石を投げられ撃ち殺されなければならなかった。妊娠がまだ知られていないうちにこっそり離縁をし、マリアがどこかよそのところに行けば、シングルマザーとしての苦労はあるだろうが、死に値する罪には問われないのである。
- ・夢は、自分でコントロールすることが難しいところから、神が見せてくださるもの、神から人へのダイレクトな働きかけだと考えられていた。ここでのヨセフへのメッセージが「夢」であったことは、葛藤するヨセフに、人の思いを超えたところから、神が打開の道を開いてくださったことを意味する。

★ 説教

アドベント・クランツに3本火がついて、クリスマスが近づいてきました。早くイエス様をお迎えして、みんなでお祝いをして、喜びたいですね。

いちばんはじめのクリスマスのときは、どうだったのでしょうか。マリアさんのお腹の中に赤ちゃんがいるとわかったとき、ヨセフさんはどれくらい喜んだのでしょうか。実はそのとき、ヨセフさんは悩んでいました。自分と結婚するはずのマリアさんのお腹に、自分の子供

ではない赤ちゃんがいるのです。マリアさんは自分と結婚する予定だったのに、他の人と結婚してしまったのかな？普通だったら、マリアさんのことを怒ってしまうかもしれませんね。「マリアさんがこんなことをしたんですよ！」とみんなの前でマリアさんを怒ったりする権利もヨセフさんにはありました。けれどもヨセフさんは、だからといってマリアさんにつらい思いをさせたくありませんでした。ですからヨセフさんは、悩んで苦しんで、どうしたらマリアさんを傷つけずに済むかなあと一生懸命考えていたんです。

でも、その優しいヨセフさんに、なんと夢の中に天使があらわれて、こう言ったのです。「ヨセフさん、恐れずに、そのままマリアさんと結婚しなさい。神様の力によって、マリアさんは赤ちゃんを身ごもったんですよ。マリアさんのマリアさんのお腹の中の赤ちゃんは、神さまからのすばらしい贈り物なんですよ。」ヨセフさんは、この天使の言葉から元気をいただきました。そして、マリアさんとお腹のイエス様の家族になる決心をしたのです。

ですから、ヨセフさんとイエス様は血がつながっていません。しかしヨセフさんはこうやって、相手を大切にす気持ちと、神様が一緒にいてくださるから大丈夫、という信仰、この二つによって、マリアさんとイエス様の家族になったのです。

「神さまと一緒にいてくださるから大丈夫」「神がわれわれと共におられる」このことを「インマヌエル」といいます。ヨセフさんとマリアさんが結婚するにはたくさんの心配や不安がありましたけれど、「インマヌエル」の神さまが、その真ん中で助けてくださいました。そして生まれてくるイエス様は、ヨセフさんとマリアさんだけではなく、すべての人の救い主となられたのです。心配を抱えたふたりのカップルをとおして、神さまはとってもとっても大きくてすばらしいことをなさいました。これが「わたしたちと一緒にいてくださる」、インマヌエルの神さまのお働きです。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□18番 「そらにはてんしの」

□改訂65番 「主を待ち望むアヴェント」

やってみよう

☆名前ビンゴをやってみよう

		イエス さま		

- ・真ん中は、全員イエスさまと書きます。
- ・あと 24 のマスに、メンバーの名前や聖書に出てくる人の名前さまを書きましょう。
- ・あらかじめ、メンバーや聖書に出てくる人の名前を書いて、箱の中に入れて準備しておきます。
- ・ビンゴ大会のスタート！！

話してみよう

- ・マリアもヨセフもみつかいの言葉にとっても驚いたでしょう。でも、2人とも神さまのみことばを受け入れましたね。この時のマリアとヨセフの気持ちを考えてみましょう。

2016年12月18日 待降節第4主日

ルカ 1:46-55 サムエル上 2:1-10 ローマ 2:17-29

★今週の聖句

力ある方が、わたしに偉大なことをなさいましたから。

ルカ 1:49

★ねらい

・

★説教作成のヒント

- ・今日の聖書箇所全体は「マニフィカート」（ラテン語で「あがめよ」）と呼ばれる賛歌である。イエスの母マリアには優しく穏やかなイメージがついているが、この賛歌の中でマリアは、むしろたいへん力強く堂々と、虐げられた人々の救いを歌い上げている。

- ・直前の 26－38, 39－45 節も参照。天使による受胎告知の後、マリアが親類エリサベトのところへ行き、天使が自分への受胎告知と共に告げたエリサベトの妊娠を確かめる。マリアは老齢であったエリサベトの妊娠に触れたことで、「神にできないことは何一つない」という天使のお告げを改めてその身に感じ、喜びの歌を歌ったのである。
- ・「はしため」という言葉は身分の低い奴隷女、という意味を持つ（「はしため（卑女）」「賤の女」は、女性の社会的地位に対する蔑視表現でもあるので、注意が必要）。実際にマリアが奴隷の身分であったわけではない。しかし「はしため」という言葉は、神の偉大さに対してマリアが自分自身をへりくだらせた表現であると共に、当時の権力・特権的階級に対してマリアは何の力も持たない非力な娘であったこと、そのマリアを通して神は偉大な恵みのわざを行われるのだ、という弱い立場の人々に対する救いの宣言でもある。

★ 豆知識

- ・「聖母マリア」というと、すでに母親として完成した、優しく穏やかで慈愛に満ちたイメージを抱くかもしれない。しかしおそらくこのときのマリアは、ようやく結婚適齢期に差し掛かったばかり、13～15 歳くらいの少女である。賛歌の内容は、イエスによって実現する神の救いの出来事を歌っているが、その出来事は決して力強い英雄をとおしてではなく、幼い少女をとおして、無力な赤子の姿でキリストが世に下ってこられることによって実現していくのである。

★ 説教

アドベントクランツの周りの 4 本のろうそくにすべて火がつかしました。やっともうすぐ、楽しみにしていたクリスマス、イエス様のお誕生をお祝いすることができます。

さて、イエス様がお腹の中に来たとき、マリアさんは何歳くらいだったと思いますか。みんなのお母さんくらい？○○先生くらい？実は、13 歳から 15 歳くらいだったと言われてるんです。中学生のお姉さんくらいですね。もっと年上だと思ったでしょう？

そんなマリアさんでしたから、はじめ、天使から「あなたは救い主を生みますよ、その子にイエスと名づけなさい」といわれたとき、マリアさんはとても驚いたんです。結婚していないのに子どもが生まれるというのも不思議でしたし、自分みたいな力の弱い女の子が、救い主のお母さんになるなんて、できるのかしら、とも思ったのでしょうね。

でも、神さまが小さなマリアさんを選ばれたのは、マリアさんが特別美しかったり、特別ないいことをした人だったりしたからではなく、この小さなマリアさんをとおして、「貧しかったり、飢えていたり、力がなくて苦しんでいる人たちに、神さまは特に大切に下さって、大きな恵みをくださるんだよ」というしるしを示されるためでした。

マリアさんは、天使が言ったことが本当だったと知ったときに、「自分は小さなものだけれども、その自分に神さまが大きなことをしてくださった！」と喜んで歌いました。小さくて、あまり力も持っていないマリアさんを神さまは選んで、イエス様のお母さんとしてくださった。そして、みんなが知っているとおりの、イエス様も、小さな小さな赤ちゃんの姿で生まれてきてくださいました。赤ちゃんは、誰かの助けがないと、生きることができませんね。生まれたときのイエス様も、誰かにお世話をしてもらわないといけませんでした。でも、その、何もできないイエス様こそが、神様が私たちのために送ってくださった、神さまのお子様でした。クリスマスのイエス様は小さくて、周りの人の助けがなくては何もできません。

でも、その赤ちゃんイエス様の姿の中に、大きな大きな神様の恵みが詰まっているのです。

だから私たちは、どんなに自分が小さく、弱く思えるときでも、神さまがいてくださるから、大丈夫！クリスマスは、そのことを喜ぶお祭りでもあります。

★分級への展開

さんびしよう

*讃美歌は”こどもさんびか”（日キ版）より

□26番 「いざうたえ」

□改訂70番 「いざ歌え、いざ祝え」

やってみよう

☆クリスマスのヒミツのみことばを探そう！

①イ・ン・マ・ヌ・エ・ルを一文字ずつ書いたカードを教会のあちこちに隠しておく。

②6枚のカードを探しだして、言葉にしよう。（聖書マタイ1：23）

③インマヌエルの意味を聖書から調べよう※1枚の厚紙に文字を書いて、パズルのようにバラバラに切ってピースにしてもおもしろい。

話してみよう

「イエス様は、○○さんのためにお生まれになりました。」にメンバーの名前をそれぞれ入れて、みんなで言いましょう。どんな気持ちができるか、話してみましよう。

2016年12月25日 降誕祭（朝）

ヨハネ 1:1-14 イザヤ 52:7-10 ヘブライ 1:1-9

★今週の聖句

降誕 ヨハネ 1:1-14

言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。

ヨハネ 1:14

★ねらい

・ヨハネ 1章は、やや難解ではあるが、テキストそのものの私たちの心に訴えてくる力はいへん強い。わたしたち、弱さを抱えた人間の現実の中に、神の言であるキリストが宿ってくださった。このクリスマスの喜びの本質を、できるだけ子どもたちの現実に即して伝えるようにしたい。

★説教作成のヒント

・「言」と訳された言葉は、ロゴスというギリシア語である。これはギリシアでは「言語」という意味の他にこの宇宙を貫く摂理を指し、神そのものとも同一視される。ヨハネは、そのロゴスが人格を持って、私たちの間に宿られたという。神のロゴスであるイエスが、わたしたちと共に生きるために、私たちの間に宿ってくださった。この方のいのちの中に、神の輝きが現れている。これはヨハネ全体を貫くメッセージである。

★豆知識

・現存する最古の日本語訳聖書であるギュツラフ訳のヨハネ福音書では、1:1を「ハジマリ

ニ カシコイモノ ゴザル」と訳した。「カシコイ」とは、うまくことばにすることはできないが畏れ多い、人知を超えた偉大なものを示す。私たちの思いを超えた大きな大きな方が、小さな小さな赤ん坊として私たちの間に宿られたこと、そこに神の奇跡がある。

・聖書をギリシア語からケセン語（岩手県ケセン地方の方言）山浦玄嗣氏は「言」を「神の想い」と訳した。言葉は思いを伝えるもの。キリストが世にこられたことは、神の思いの表れなのである。

★説教

クリスマス、おめでとうございます！やっ、この日が来ましたね。昨日のクリスマスイブはどうでしたか？教会に来た人もいたかもしれませんね。やっ、イエス様のお生まれをお祝いできます。でも、さっき読んだ聖書には、赤ちゃんのイエス様は出てこなくて、不思議な言葉が出てきましたね。「言は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」

この「言」ってなんでしょう。実は、イエス様のことです。イエス様が「ことば」？とても不思議なことが言われていますね。少し、「ことば」ということについて考えてみましょう。皆さんは、最近、どんなことばを使いましたか。いい言葉？よくない言葉？優しい言葉？人を傷つける言葉？言葉って、いろいろな使い方ができますね。言葉って、自分の気持ちを相手に伝えてくれる、とても大切なものなんです。そして、イエス様は神様の「ことば」なんだって聖書は言うんです。

神様は、わたしたちに、特別な「言」をくださいました。それがイエス様です。イエス様が「言」？と、不思議に思うかもしれませんね。しかし、そうなのです。神さまがわたしたちに与えてくださった言が、イエス様なんだよ、と今日の聖書はわたしたちに教えてくれているのです。

「ことば」はその人の気持ちを伝えます。イエス様は神様の「ことば」です。つまり、イエス様は神様の「気持ち」なんだということです。イエス様は、神様の気持ちをあずかって、私たちのところに来てくださったのです。

イエス様のお誕生の知らせを、いちばん最初に聞いたのは、寒い中を野原で羊の番をしていた羊飼いさんたちでした。羊飼いさんたちにとって、天使さんからのイエス様のお誕生の知らせは、「こんなに寒い中で野宿をしている自分たちのことも、神様は見てくださっているんだ」「神さまは、僕たちのことも救ってくださるんだ」という、とっても嬉しい「ことば」でした。イエス様は飼い葉おけの中に、ちくちくするわらのベッドにお生まれになりましたね。そのイエス様のお姿は、イエス様を贈ってくださった神さまからわたしたちへの「ことば」です。この赤ちゃんイエス様をとおして、神様はわたしたちに、「あなたが暗かったり、寂しかったりするところにいるときでも、わたしはあなたと一緒にいるよ」と話しかけてくださっているのです。イエス様は、神さまがわたしたちに神様の気持ちを伝えるために送ってくださった、神さまからの「ことば」、とはそういうことなのです。

だからわたしたちは今日、イエス様を送ってくださった神様に感謝して、クリスマスをお祝いします。そして、わたしたちだけが喜ぶのではなく、「いま、苦しい思いをしている人、寂しい思いをしている人たちのところに、本当のクリスマスの喜びがやってきますように」とお祈りをしたいと思いますし、わたしたちも、その神さまの気持ちをいろんな人に伝えるために、何ができるか考えていけたらいいですね。

★分級への展開

さんびしよう

*讚美歌は”こどもさんびか” (日キ版) より

□28番 「もろびとこぞりて」

□改訂67番 「羊飼い群れを」

話してみよう—喜びを共にしよう—

- ・小さな村の家畜小屋の中の大きな喜び
- ・最も貧しい羊飼いたちが一番先にお祝いした。

やってみよう

ベツレヘムの星をつくろう。

ほし

